



KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年 12 月 12 日 Vol. 22

日本の小学校では、2020 年度からプログラミングの授業が必修化され、高校でも 2022 年度から「情報 I」としてプログラミング教育が必修となりました。そのため、今や情報教育、特にプログラミング教育は日本ではホットな内容です。そんな中、「ナミビアでは、IC（情報）の授業はどんなことをやっているの？」と質問があったため、今回はその一部をご紹介します。

IC Education Work Sheet #1

Class _____ Name _____ Learner number _____

Theme What is the Internet?

*This worksheet has to do with Q3, Q4 and Q5 of the IC TOPIC test.

● What is the Internet?

(1) Let's think! What can we do with the Internet? Choose ALL the options below that you think are correct.

- A) Playing games.
- B) Watching videos or movies.
- C) Searching for something.
- D) Talking with people abroad.
- E) Attacking others.



Your Answer ()

⇒ The Internet is

The name of connecting to the internet wirelessly is

(2) If there is an Internet accident in Namibia and the Internet goes down, the entire world's Internet will be disconnected.

Correct Incorrect * Check one option that you think is correct.

(3) Information on the Internet is ALWAYS true.

Correct Incorrect * Check one option that you think is correct.

⇒ So, you must be careful when using the Internet. You could hurt someone or get involved in a crime.

(4) What do you think that you must be careful when you use the Internet? Think of the most appropriate word to fill in the blank below and try to fill it in.

⇒ ● Do not write things about other people.

● carefully about whether the information is correct or not.

写真 1 : IC で使用するプリントの一部

そもそもですが、配属先には PC が 1 台しかなく、生徒はおろか教員もなかなか使用できません。そのため、日本で一般的に行われているような PC を用いた授業ができず、代わりにプリントを作成して（写真 1）、IC リテラシーといったインターネットや SNS 使用時のルールについて主に取り扱っています（写真 2）。

リテラシーというテーマをメインピックに選んだ理由の一つはナミビアの IC のシラバス内に、教えるべき内容の大きなくくりとして「LITERACY（リテラシー）」があるからというのがありますが、他方でそれ以上に教育現場では生徒が SNS を用いて他人を誹謗中傷する“Cyber bullying（ネット上のイジメ行為）”が深刻化しているという実態があるからというものもあります。



写真 2 : IC の授業の様子

昔は Facebook や X（旧 Twitter）が主流だった SNS も、現在では Instagram が中心となり、多くの生徒が自身のスマホ、もしくは保護者のスマホで利用しています。ただ、中には不適切な利用の仕方をしている生徒もあり、他の生徒の写真を悪口と共に無断で掲載したり、教員への誹謗中傷を悪質な画像と共に投稿したりといったことが度々職員間で問題として上がっていました。例えば、他校の事例ですが

生徒から嫌いな教員の殺害をほのめかす投稿があったという警察沙汰になるようなケースまで報告として上がっており、事態は深刻です。そのため、このテーマの選定には SNS の使い方について再度周知しなければ、将来的に安易に他人を傷つける、犯罪を起こす・巻き込まれるといったことに繋がりがかねないと考えたからという経緯もあります。

一方、この授業を通して、生徒の抱える各教科の学力課題に“英語”が大きく関与していることも分かってきました。例えば、授業内で

スマートフォンをロックしていない時は、
➤ スマートフォンを身に付けておくこと。
➤ 他人に貸さないこと。

という常識に近いことを教えたとします。これを、ほぼ毎回の授業の最後に実施する理解度把握のための確認テストで、少しひねって

(問) スマートフォンをロックしていなかった場合の行動として、適切でないものはどれか。次の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (a) スマートフォンを身に付けておくこと。
- (b) 机の上に置いたまま、離席すること。
- (c) 他人に貸さないこと。

と出題したところ、実に8割近くの生徒が (a) か (c) を選択しました。原因は①問題文の意味（特に強調部分）を理解できていない生徒、②英文読解に苦手意識があるからか文章をほとんど読まず、なんとなく解答する生徒がそれぞれ一定数おり、彼らが授業内の説明に引っ張られて、同じ言葉が入っている選択肢を選んだという結果に因るものです。日本人の同学年に、日本語で上の問を出題すると、おそらく正答率は上がると思います。そのため、数学にも [Vol.7](#) で記載したような課題はありますが、それと同じほど英語の読解力や英文を極力避けるといった彼らの英語力にも課題があることがより分かりました。

またせっかくの機会なので、アクティビティも実施しました。その一つが JICA ボランティアだからこそできる日本の高校生との交流事業です。写真3はオンラインで繋いだ時の様子で、本人たちのとてつもなく強い希望もあり [Vol.21](#) に記載したようなヤンチャな生徒が多いクラスで敢えて実施しました。



写真3：日本とのオンライン交流



写真4：日本の生徒をまじまじと 写真5：日本の生徒との質疑応答
見ている様子

当日は、プロジェクターに繋げて行おうと考えていましたが、教室が通電しておらず、結果的に写真4のようにPCの画面を直接見せて行いました。時差の関係で時間をあまり取れず、計25分程でしたが、その時間で互いに質疑応答等をしていました（写真5）。こちらの生徒の反応は、それはそれは凄まじく、まさに猛獣の雄叫びの

ようでした。「やかましい！聞こえない！」と声を張りすぎて、その時間だけで声が枯れました。ただ全員、同年代の日本人と会話することが初めてだったため、ポジティブな反応が多かったです。特に男子たちは女子生徒を見るや否や「この子たち、皆かわいい♥️」と黄色い歓声があがり、中には写真5のように画面越しにキスしようとする子までいました。「下品だから、止めなさい。」と言うと少し離れますが、終わった後に“i love you.”と言って画面にキスをしていました。画面がベタベタになり、今ではいい思い出です。

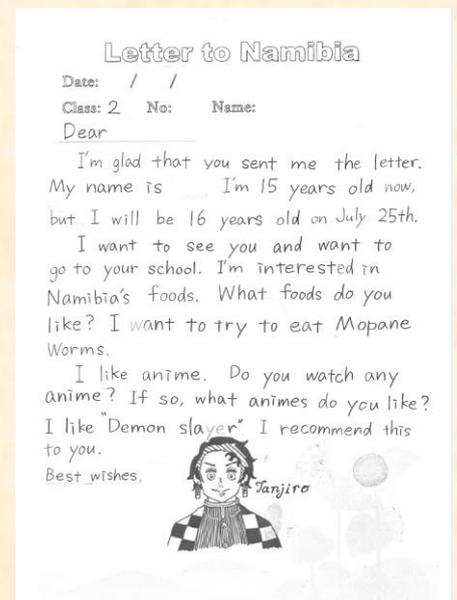
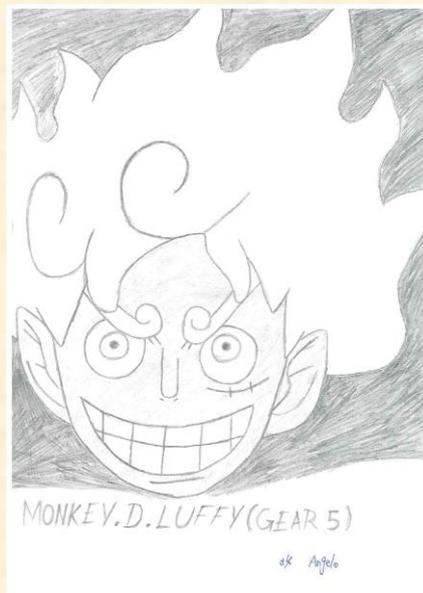
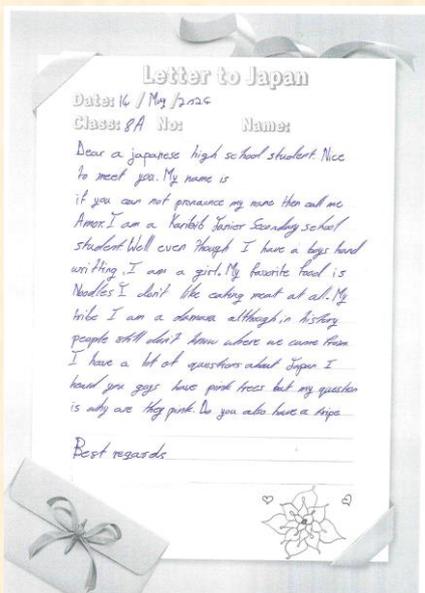


写真6（左），7（中央）：ナミビアの生徒から日本の生徒へ向けて書いた手紙

写真8（右）：日本の生徒からの返信

また、オンライン交流以外でも手紙の交換をしました。こちらも評判は予想以上で「返信、まだ？」と何度も催促してくる生徒も。アニメの絵をお互いに描く子もいて、アニメの力を再認識するとともに、実施は大変でしたが、やってよかったと思えた試みでした！

次回：日本語クラスの生徒と日本の高校生とのオンラインセッションの様子を紹介します！